

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所なゆた		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		2025年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 34名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・「こどもは通所を楽しみにしているか」の問いに対して、97%の「はい」といただけていることは喜ばしいこと、です。当事業所の職員が、児童にも保護者にも真剣に向き合ってきている結果だと思えます。	・「児童支援は親支援」という言葉を職員で共有するようにしています。児童発達支援は、児童への直接支援だけでは意味をなさず、保護者の支援をすることが重要である、ということ職員で共有するようにしています。	・次年度は、アセスメントと非認知能力をベースにした講演会を実施できたらと思っています。
2	・「こどもは安心感をもって通所していますか」の問いに34件中34件の「はい」をいただけたことはとてもありがたいことです。利用児童の保護者から客観的に見て頂いてそう感じていただけたということは、自信を持って継続していきたいと思えます。	・「安心感」は、なゆたが療育のベースに置いているアタッチメント形成を意識した関わり、と深く繋がることであり、全てのこどもの発達の根幹となるよう考えていますので、引き続きそう感じていただけるようにしていきます。	・アタッチメント形成に関する情報共有、研修への参加等は職員で声をかけあって続けたいと思えます。
3	・「こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思えますか」の項目で34件中34件「はい」をいただけていることも安心しました。少なくとも現時点では支援計画の説明には理解をいただけているということかと思えます。	・説明の中で極力テクニカルタームを使わない、保護者の思う目標や課題が大切である以上に保護者と児童が上手にできている部分をクローズアップする等を意識しています。「課題」としてとらえるのではなく、「発達の最近接領域がどこにあるか」でとらえるようにしています。	・児童と保護者のニーズの中心はどこなのかを把握してから支援にあたるのが大切だと思っています。テクニカルなアドバイス必要とされている場合と、気持ちの整理が一番のニーズの時とは全く相談の形は変わります。ちゃんとニーズにそった支援を目指し続けます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・「父母会」等について34件中19件の「わからない」、「地域との交流」について34件中5件の「いいえ」をいただいております。「わからない」はニーズの有無ではないのですが、内在的にニーズがあるのならば考えないといけない点であると思えます。	・当事業所は時間ごとに別々の児童が利用してくれているため、他の曜日や時間の児童と出会う事はほとんどありません。その形の中で、事業所として保護者の方向士の交流にどのように尽力できるかに迷いながら療育をおこなってきた、というところはあると思えます。	・他の保護者の皆様との繋がりについてのニーズ把握等はおこなわなければと考えます。不定期で実施している講演会等も活用できればと思います。
2	・事故防止マニュアル等の存在についての周知が行き届いていない、という点は当事業所の反省しないといけない点です。作成はしていますが、その存在や活用については、評価の結果からも伝わっていません。事業所内の掲示や支援計画等を通した周知を考えなければと思います。	・内容的に職員が把握すべき特色が強く、利用者の皆様には少し縁遠いととらえてしまっている部分は改善しないといけないと思えます。	・一番左のマスにも記したように、事業所内での掲示、支援計画を活用した周知をおこなってまいります。
3			